

# 温もりのあるその音楽は、唯一無二 2020年の来日中止を経て、 実に4年振りとなる公演決定！

20世紀中頃からの録音機器の発達に加え、近年は動画配信も盛んになり、音楽をより身近に感じることができるようになったことは大いに歓迎されるべきところだが、それ故に楽界全体にテクニック重視の演奏が増えてしまったことも否めないところだろう。そんな今だからこそ、シャルル・リシャル＝アムランを聴きたい。

第2位を受賞したショパン・コンクール2015ではM.アルゲリッチ、P.アントルモン、ダン・タイ・ソン、D.ヨッフエ等名だたる審査員が最高の評価を与えていたことも話題になったシャルル・リシャル＝アムランだが、彼の魅力はその輝かしい経歴ではなく、ブレのないテクニックと豊かな表現幅、何よりその人間性が表れたような温もりある音楽にこそある。音楽への謙虚な姿勢、そして溢れる愛情が表れた演奏を2016年以降の来日公演で耳にし、すっかり虜となった方も少なくないだろう。

2020年にも来日を予定していたが、コロナの影響により実現せず、今回はそれ以来となる待望の公演だ。隅々まで血の通った、彼ならではのショパンを聴ける喜びを、じっくりと噛みしめたい。

## シャルル・リシャル＝アムラン

### 《オール・ショパン・プログラム》

All Chopin Program by Charles Richard-Hamelin

ショパン・  
コンクール  
2015  
第2位

**シャルル・リシャル＝アムラン** Charles Richard-Hamelin

2015年に行われたショパン国際ピアノ・コンクールで第2位とクリスチャン・ツイメルマン賞（ベスト・ソナタ賞）を受賞し、同世代の中でも最も重要なピアニストと注目されている。2014年、モントリオール国際音楽コンクールで第2位、ソウルでの国際音楽コンクールで第3位と、ベートーヴェンのソナタ演奏で最優秀賞を受賞、2015年4月には、トロントの婦人音楽クラブから特別キャリアアップ賞を贈られた。

ブラハの春音楽祭、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭（フランス）、ショパンと彼のヨーロッパ国際音楽祭（ワルシャワ）などの様々な有名音楽祭に出演。ソリストとしても、カナダの主要なオーケストラを含め、ワルシャワ・フィル、モントリオール響、トロント響、ボズナン・フィル、モントリ

オール市管、コリアン・シンフォニー等と協演している。

ケベック州ラウディエル生まれ。P.サルドゥレスク、S.ライモン、B.ベルマン、A.ラブラントに師事。2011年マックギル大学を卒業、2013年にはイエール大学から修士号が贈られた。2016年にモントリオール音楽院を修了。ピアニストのJ.サウルニエとともに後進の指導にあたっている。

カナダのアナレクタ・レーベルからリリースされている6枚のCDは、世界中で高く評価されている。2018年にアンドリュウ・ワン（Vn）とのベートーヴェン・ヴァイオリンソナタを、2019年にはケント・ナガノ指揮モントリオール響とショパンの協奏曲を、さらにショパンのバラード、そして2020年は24の前奏曲をリリース、いずれも高評を得ている。

2016年5月の日本でのリサイタル・デビューは各地で絶賛され、すでに6度の来日を果たしている。